

2003 年度
カナダ・ヴィクトリア大学環境学部
フィールド・コース
民族生態学と環境哲学

Ethnoecology and Environmental Philosophy:
A Field Course in Southern British Columbia

1

ヴィクトリア大学環境学部フィールド・コース「民族生態学と環境哲学」

私たちは7月17日から8月3日までの間、カナダ・ヴィクトリア(ブリティッシュ・コロンビア州)に滞在し、ヴィクトリア大学 環境学部開講によるフィールド・コース「民族生態学と環境哲学 - 南ブリティッシュ・コロンビア州フィールド・コース Ethnobotany and environmental Philosophy: A Field course in Southern British Columbia」(期間:7月22日~30日/指導教授:Nancy Turner 教授[ヴィクトリア大学]、谷口文章教授[甲南大学])に参加してきました。

このフィールド・コースでは、主にブリティッシュ・コロンビア州の南部にあるファースト・ネーションズ(カナダ先住民族)の居留地をめぐり、先住民の歴史・伝統・文化、ライフスタイルに触れながら、先住民の人々が現在抱える土地利用、自然保全の問題、さらに環境問題について学び交流をしてきました。

Ethnoecology and Environmental Philosophy: A Field Course in Southern British Columbia
School of Environmental Studies, Summer 2003
July 22-August 1st, 2003

Day 1 - July 22nd	Introductory day; on University of Victoria campus; presentations by Nancy TURNER, Ann GARIBALDI, and Fumiaki TANIGUCHI in a.m.; Afternoon – informal discussions about the readings, etc.; Video: Secwepemc Cultural Education Society Map: discussion/photos of sites to visit
Day 2 - July 23rd	<i>morning:</i> leave univ. at 7:30; catch 9:00 am ferry; travel to Chilliwack; homeland of the Sto:lo Nation; <i>afternoon:</i> visit Sto:lo ethnobotanical garden and Museum; Sumas Lake; drive to Hope and up Fraser Canyon to Skeetchestn; picnic dinner en route...
Day 3 - July 24th	<i>morning:</i> Skeetchestn; day trips; visit with community; Ron and Marianne Ignace, etc. <i>Late afternoon:</i> catered dinner at band hall
Day 4 - July 25th	<i>morning:</i> drive to Kamloops; visit Secwepemc Museum and ethnobotanical garden <i>afternoon:</i> drive up to Komkanetkw (Scheidam Flats, Paul Creek Valley), (possibly through Penanten Lake to Monte Creek – backroad; discuss ranching, archaeobotany, wetlands, land use, etc.); stay at cottage in the Monte Creek [picnic supper] drive to Salmon Arm late at night
Day 5 - July 26th	<i>morning:</i> Salmon Arm; visit Salmon River estuary and Dr. Mary Thomas and family; talk about the traditional cultural practices, salmon conservation, wetlands and lost habitats; also about traditional territories, land rights, etc. Possibly go to Kingfisher Centre near Enderby or to Wap Valley (all day trip); berry picking and ethnobotany
Day 6 - July 27th	<i>morning:</i> drive to Revelstoke; visit site of Last Spike on CPR at Craigallachie; Mount Revelstoke National Park; discuss the role of railways, and parks and protected areas. Seasonal Rounds and cultural use of the region.
Day 7 - July 28th	Salmon Arm; Neskonlith Meadows; possibly Sun Peaks; Mount Ida <i>Late afternoon:</i> pit-cooking & ethnobotanical research
Day 8 - July 29th	Home via Vernon or Coquihalla; Sandi... Okanagan Valley; Jeanette Armstrong, Enowkin Centre to discuss the applications of Traditional Ecological Knowledge in Forestry and Land Management. also to discuss Traditional Use Studies, Highway construction, traditional land and resource management. last ferry home
Day 9 - July 30th	one-day review; seminars on group projects; wrapup...

2

フィールド・コース概要

本コースでは、ファースト・ネーションの儀式、祭式、民間医療・伝統医療で長い間使用されてきた植物や薬草について、ナンシー・ターナー先生より学びながら、Skeetchestn 部族、Secwepemc 部族、Neskonlith 部族、Enowkin 部族の居留地を訪れ、土地と人々が織りなす関係、その周辺にある環境問題について話し合い、交流を深めました。



ナンシー・ターナー先生より薬草についての説明をうける



ファースト・ネーションの伝統的な音楽や楽器に親しむ

3

ファースト・ネーションのライフスタイル

ファースト・ネーションは、ヨーロッパより移民が移り住むはるか以前より、自然や土地と一体となった生活を送ってきました。主に狩猟によって生計を立て、自然から必要最小限の恩恵を享受することを生活の基本としています。彼らは独自の文化を形成し、シャチ、鷲、熊、サンダーバード、ワタリガラス等の動物や自然をシンボルとして崇拝しています。これらのシンボルはトーテム・ポールなどのアートに多く見られ、また伝承される物語にも登場し、人々の生活に深く浸透し、古くから人々の精神的な拠り所としての役割を担ってきました。私たちは、フィールドツアーで Skeetchestn 部族より鏝(やじり)制作の見学、ハーブ(薬草)の利用についてのフィールド学習を体験しました。それによって、いかに人々が生活の知恵を守りながら、必要物資を自分たちで採集・創作し、また部族間で物々交換することによって生活をしているかを学びました。古代からの生活が洗練されながら今日まで伝承され、大量生産、大量消費、大量輸送、大量廃棄を伴わない、自然に即した伝統的な生活形態が息づいていることに感銘を受けました。



樹脂をガムとして使用する 口内の殺菌効果がある



鏝の制作過程を見学する

4

伝統文化の継承をめぐる問題

Dr. メアリー・トーマス(植物学博士・Secwepemc 族長老)より、ファースト・ネーションの歴史・伝統文化の継承をめぐる諸問題について講義を受けました。

カナダ政府による政策の下、ファースト・ネーションは現在居留地という土地に住んでいます。バンド(集合体)を組み、ひとつひとつのバンドには酋長が一人おり、200 人単位のコミュニティが形成され、各々の部族は異なった言語を有しています。

1763 年よりはじまった植民地化によって、カナダ政府は先住民が先祖代々守ってきた土地を買い上げ、先住民の文化や言語を排除することを目的とした学校教育が行なわれてきました。そして今日、長い歴史を有した先住民の文化や言語は絶滅に瀕する結果となりました。また従来保全してきた土地や自然の環境破壊が進み、商業目的としたハーブの乱獲等によって、絶滅危惧される植物も多くあります。このようにして長い歴史の中で守られてきた文化、言語、自然が失われていく問題だけでなく、先住民の中で脈々と伝えられてきた伝統文化を継承する人が少なくなりつつあることも大きな問題としてクローズアップされています。



Dr. メアリー・トーマス(植物学博士・Secwepemc 族長老)よりファースト・ネーションの歴史について話を聴く

5

土地利用をめぐる問題 - 開発と環境保全 -

ツアーの4日目に訪れたサンピークスの山々にスキー場建設の計画が進行していました。この土地は、ファースト・ネーション Neskonlith 部族の人々によって従来豊かな自然を守ってきましたが、最近、売り地に出され日本やアメリカ合衆国等の多国籍企業によってリゾート開発が振興されていました。その周辺の山々や森林はスキー場やホテルの建設のためにクリアーカット(乱伐)され、木々はすべて切り倒されていました。

開発と保全——これらをめぐる問題は、本当の「豊かさ」とは何かという問題を私たちに突きつけてきます。ファースト・ネーションの人々は人間も自然の生態系の一構成員であることを自覚し、その土地の自然や動植物と共生してきました。一人ひとりが本当に必要なものだけを望み、「等身大の価値尺度」をベースとしたライフスタイルを獲得してきました。ここ数十年のうちに地球環境破壊は至るところで進行し、深刻化しています。先住民が自然の中で育んできた固有文化を尊重し、持続可能な循環型社会の創造を志向することが求められます。



クリアーカットが進み、リゾート地開発のために自然が破壊されていく

6

ピットクッキング体験

ファースト・ネーションの人々は日々に必要な糧を自然の中から得て、生活を営みます。自然の恩恵を享受するために生活の知恵が現在も引き継がれており、生活の隅々で生かされていました。その一端として、先住民の間に伝わる伝統的な料理法であるピットクッキングを体験しました。これは穴の底で石を焼き、その上にハーブ(セージ、バジル、フェンネル等)を敷きつめ、野菜を乗せ、その上にさらにハーブで覆った後に水を入れる伝統的な蒸焼料理です。ファースト・ネーションズの料理に特徴的なことは自然のハーブを多用することです。実際に私たちは自給自足の生活のなかでピットクッキングを実践しました。この時は日本独自の薬草であるドクダミ、クズ等を多く入れて料理しました。ピットクッキングに使うハーブの種類は何でもかまいません。その土地にあるものをうまく組み合わせる使うことが大切です。中に入れるハーブが違えば、立ちこめる匂いも、味も違ってきて、風土に応じたものになりました。この料理は調味料を一切必要とせず、野菜本来の味をそのまま楽しむことができました。



伝統的なピットクッキングを体験する



野菜本来の甘味がハーブによってよりひきたつ

7

ハーブ療法とファースト・ネーションの生活の知恵

カナダのファースト・ネーションは、生活と自然が密接に結びついています。薬草の利用、精神的ヒーリングなど様々な方法によって伝統的医術体系が確立されています。ロン氏に実際の生活の中で植物がどのように利用されているかを見せていただきました。まず松の樹皮の利用法です。のどが渴いた時は松の皮をナイフではがし、樹皮を薄く切ります。この樹皮には水分を多く含んでいました。この樹脂はネイティブの人々にとって、ガムとして口内の殺菌効果があるとして、使われてきました。実際に試してみると、水分と樹脂の渋い味がしました。また、インディアン・アイスクリームの材料となるソーベベリーを採集しました。ソーベリーの切り取った枝を手に持ち、赤い実をたたきながら落とし、その後ジュースにしてもらいました。ソーベベリーも薬草としてネイティブの人々に日常的に利用されてきていました。実際に飲んでみると、はじめ苦い味がしますが、その後ほのかな甘みを楽しめます。この他にも多くの薬草や食用の草を教えてくださいました。日本でも見られるフキやノビルなどもありました。私たちはごく一般的な植物がファースト・ネーションズにとって食物であり、薬となるという植物の違った一面を知ることができました。地域の植生をうまく応用して生活に組み込むといった知恵は、現代の私たちの生活にも取り入れることができるでしょう。



ソーベベリーをみんなで摘み、ジュースにする



ハクトウワシに遭遇 自然の雄大さを感じる

8

フィールド・コースを通して

私たちは、本コース内でそれぞれの専門領域に応じて、「民俗植物学」、「環境保全」、「環境政策」、「健康」の4テーマを選び、テーマ別のグループで研究課題に取り組みました。グループ内で今回のコースで学んだこと、感じたことを議論し、最終日にフィールドツアーを通して学んだことの成果報告を行いました。

カナダで環境問題について考える場合は、まずファースト・ネーションとの関係が問題となります。ファースト・ネーションの居留地を買い上げて開発していくことで環境破壊が進んでいったからです。カナダでは環境問題とファースト・ネーションズの経済・人権問題は密接に関係しています。また、今回のツアーを通して持続可能な循環型社会の創造のヒントを得ることもできました。ファースト・ネーションの生活は自然と共生しています。彼らのライフスタイルは自然への最小限のダメージと、全ての物質を無駄なく利用するという信念に基づいています。一匹の鹿を狩れば、肉は食料に、骨は道具に、毛皮は衣服に利用され、全てを無駄にすることなく、自然の恩恵を享受するのです。このようなライフスタイルは無駄を無くし、自然保護につながるといえるでしょう。七日間を通して、彼らの生活の一端を体験することはできませんでしたが、私たちの生活にどれほ

ど無駄が多いかを知ることができました。私たちがよりシンプルに無駄のないライフスタイルへ変更することが循環型社会の創造への一歩となるのではないのでしょうか。

生態系のバランスを乱すことは、その土地固有の文化の破壊にもつながることがわかりました。これは鯉などの外来種だけが原因ではありません。利己心による動植物の乱獲や過剰な森林伐採によっても生態系は崩れてしまいます。私たちは自然の一部であり、あらゆるものと共生していることを再確認するよいきっかけとなりました。



Enowkin センターにて話を聴く



テーマ別に分かれ、ツアーを通しての発表をしディスカッションを行なう